

# インフォメーション・コーナー

## 会 告

○2022年度農業農村工学会大会講演会のWEB投稿受け付けを開始しました 投稿受付締切 4月8日	58
○新刊「土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計 パイプライン」の発刊	58
○学会誌企画・編集委員会 学生委員の募集 応募締切 3月31日	59
○お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付	59
○2022年度からCPD利用料等を改定します	60
○CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載	60
○学会誌掲載報文等によるCPD 通信教育の参加者募集!!	60
○2023年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6月30日	61
○「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	62
○改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧申込み案内	63
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2020年7月から2022年6月までの編集体制と編集事務局	63
農業農村工学会論文集 内容紹介	65
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム(一般参加可) 一覧	67
学会記事	67

## 会員のみなさまへ

- 1) 春は、多くの会員の方々が転勤や卒業をされます。引き続き、学会誌等を正しくお届けするため、個人情報に変更のある方は、suido@jsidre.or.jpまでご連絡ください。会員専用サイトでも、登録された個人情報の確認と変更手続きができます。
- 2) 2021年度いっぱい退会される方は、3月末日までに退会届をご提出ください。様式は、学会ホームページからダウンロードしてください。
- 3) 2021年度の会費が未納の方は、3月末日までにお納めください。

### 第90巻第4号予定

**展望:** 持続的低密度社会の実現のためになすべきこと: 猪迫耕二

**小特集:** 持続的低密度社会に、何が必要か—コロナ後、農業農村整備の役割を考える—

報文: パンデミックは農村に何をもたらしたのか: 服部俊宏ほか

報文: コロナ禍に山古志への移住で考えた農業農村整備: 坂田寧代

報文: ポスト多面的機能と農村施策(直接支払に注目して): 遠藤和子

報文: 持続的低密度社会に向けた農村振興を考える: 木下幸雄

報文: 山間農業地域の次代継承に向けた持続的土地利用の可能性: 岩崎 史

### 技術リポート

北海道支部: 農業高校の生徒によるICT施工の汎用化に向けた取組み: 堀毛憲太郎

東北支部: 原崎沼における関係者と連携した外来種駆除: 大内 明ほか

関東支部: 山腹を走る大間々用水路の更新工事: 中島伸也

京都支部: 連続繊維巻立て工法による橋脚の耐震補強: 川北幸洋

中国四国支部: 樹園地の再編整備事例: 岩崎哲也ほか

九州沖縄支部: 土地改良事業による生産物の品質向上効果の算定事例: 白井一美ほか

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策等により、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこともございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2022年3月 16日	水土文化研究 部会	第18回研究会 ⓑ	ため池の利活用に関する〈水土の知〉	東京都	90巻2号
2022年8月 30日～9月2日	大会運営委員 会	2022年度(第71回)農業農村 工学会大会講演会 ⓑ	—	石川県	89巻12号 90巻1, 2号

### 2022年度農業農村工学会大会講演会のWEB投稿受付を開始しました

すでにお知らせしましたように、2022年度農業農村工学会大会講演会は、石川県地場産業振興センター(石川県金沢市)において2022年8月30日(火)、31日(水)、9月1日(木)の3日間および現地研修会を2日(金)に開催します。

大会講演会発表の申込み(WEB投稿)の受付を3月1日より開始しました。

詳細は学会ホームページの大会講演会  
<http://www.jsidre.or.jp/zenkokutaikai/>  
をご覧ください。

WEB投稿受付期間:

2022年3月1日(火)～4月8日(金)

### 新刊「土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計 パイプライン」の発刊

令和3年6月に制定された「土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計 パイプライン」(農林水産省農村振興局編集)を2022年1月20日に発刊いたしました。

<改定の趣旨より抜粋>

…(中略)…、前回の改定から12年が経過し、その間に発生した東北地方太平洋沖地震等の被災の経験、パイプラインの要求性能(管材の長期特性、流速係数C値)への対応、施設の長寿命化の観点、技術の進展等から改定を行ったものである。

主要改定内容は次のとおりである。

- (1) パイプライン設計における耐震設計の充実
- (2) パイプラインの要求性能
- (3) 保全技術の充実
- (4) 新技術の取り込み

購入希望の方は、下記要領にてお申し込みください。

#### 1. 発行書籍

書籍名: 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「パイプライン」基準, 基準の運用, 基準及び運用の解説, 技術書

編集: 農林水産省農村振興局

価格: 2,750円(税込), 送料: 1冊200円(最大600円)

規格: A4判 618ページ

発行日: 2022年1月20日

#### 2. 申込み方法

I. 個人, 法人の場合(賛助会員を除く)

- ① 郵便振替: 郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名, 冊数, 送付先, 担当者名, 連絡先をご記入ください。

振替口座番号: 00160-8-47993

加入者: 公益社団法人 農業農村工学会

- ② 現金書留: 書籍名, 冊数, 送付先, 担当者名, 連絡先を書いた注文書をご同封ください。

- ③ 代金引換: 書籍名, 冊数, 送付先, 担当者名, 連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailまたはFAXでお送りください。別途, 送料の実費と代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名, 冊数, 送付先, 担当者名, 連絡先を書いた注文書をE-mailまたはFAXでお送りください。

#### 3. 申込み先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会事務局 図書係

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494

E-mail: [suido@jsidre.or.jp](mailto:suido@jsidre.or.jp)

学会誌企画・編集委員会 学生委員の募集

学会誌企画・編集委員会では、学生向けの企画などを担当していただく学生委員を募集いたします。

募集要領は次のとおりです。ふるってご応募ください。

1. 応募資格

- (1) 学生会員であること（応募時に入会も可）
- (2) 年3回程度開催の委員会（東京都港区新橋にて開催）に出席できること（旅費を支給します）
- (3) E-mail, Web が使える環境にあること
- (4) 指導教官の承認を得ること

2. 任 期 2022年4月から最長で2年。卒業、就職等で途中退任も可

3. 募集人数 2名

4. 応募締切 2022年3月31日（木）

5. 応募方法

下記①～⑦を記入の上、henshu@jsidre.or.jp までメールでお送りください。

- ①会員番号, ②氏名, ③大学名, ④2022年4月からの学年, ⑤年齢, ⑥承認を得た指導教官名, ⑦連絡先メールアドレス

6. 問合せ

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付

新型コロナウイルスの対策として学会で2021年度の学生会費を免除することが決定しました。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
  - ・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
  - ・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮に資する技術開発
- ③ ①, ②以外の分野および学際的分野に関する調査・研究の推進

・上記①, ②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術

- ④ 国際学会会議への出席等の国際交流の推進
- ⑤ 若手研究者の育成の推進
- ⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進
  - ・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理
  - ・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など
- ⑦ その他（学会に一任）

詳しくは学会ホームページ ([http://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin\\_kifuno-onegai/](http://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/)) をご覧ください。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制優遇措置（一般損金算入限度額+特別損金算入限度額）が受けられます。

## 2022年度から CPD 利用料等を改定します

2022年4月1日より CPD 利用料等を改定します。

現行の CPD 利用料等は、課税対象となった 2011 年度に CPD 利用者の負担増を避けるために内税扱いにして実質的に本体価格を減額し、以降その価格を維持してきましたが、2022 年度から税抜価格を当初の価格に再設定いたします。また、CPD 取得証明書の発行費用を 1,500 円（税別）に増額する一方で、CPD 法人登録者（D 区分）の利用料を 15,000 円/件（税別）に減額いたします。改定内容は下記のとおりです。なお、

1 機関当たり新たに 100 人以上がまとめて登録する場合の登録料免除や、30 人以上が所属する機関において利用料を一括納入する場合の割引については、それらの制度を維持します。

見込まれる収入の増分は、喫緊の課題であるセキュリティの一層の強化や利用者サービスの向上を図るためのシステム改造費に充当する計画です。

ご登録の皆さまにはご負担をおかけいたしますが、何卒ご理解を賜りますようお願いいたします。

	現行価格（税込価格）	2022年度からの改定価格（税込価格）
1. CPD 登録料	953 円（ 1,048 円）	1,000 円（ 1,100 円）
2. CPD 年間利用料（個人）		
・ 学会員	2,381 円（ 2,619 円）	2,500 円（ 2,750 円）
・ 非学会員	3,810 円（ 4,191 円）	4,000 円（ 4,400 円）
3. CPD 年間利用料（法人）		
・ A 区分	476,191 円（523,810 円）	500,000 円（550,000 円）
・ B 区分	285,715 円（314,286 円）	300,000 円（330,000 円）
・ C 区分	95,239 円（104,762 円）	100,000 円（110,000 円）
・ D 区分（1 件）	28,572 円（ 31,429 円）	15,000 円（ 16,500 円）
4. CPD 取得証明書	953 円（ 1,048 円）	1,500 円（ 1,650 円）
5. 緊急処理費用	9,524 円（ 10,476 円）	10,000 円（ 11,000 円）

## CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載

農業農村工学会技術者継続教育機構では、農業農村工学会員でもある CPD 個人登録者が在宅のまま CPD 単位が取得できることを目的に「CPD 通信教育」を実施しています。

2021 年 9 月より、技術者継続教育機構のホームページにそ

の時点で解答可能な「通信教育問題」と解答期限を過ぎた「解答」を掲載しています。学会誌がお手元に届くまでの間はホームページ上で通信教育問題をご確認くださいませよう願いたします。

## 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

### 1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

### 2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

### 3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

### 4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 3 号掲載の問題は 4 月末日が解答期限）

### 5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7~9 問正解で 1.5 cpd を自動登録

（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません）

### 6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

## 2023年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2023年発行の学会誌も引き続いて学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

### 趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

### 記

#### 1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦労が垣間見える造形美・用の美など」

#### 2. 対象巻号 学会誌第91巻（2023年第1～12号）

#### 3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—フォトペーパー／滑面タイプ」を使用してください。四つ切りワイド、A4サイズも含まれます。なお、六つ切りは203×254 mm、四つ切りは254×305 mm、同ワイドは254×356 mm、A4は210×297 mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。一点につき5 MB以下とし、これを超えるものはCDまたはDVDにて送ってください。形式はJPEGのみに限定します。

#### 4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

#### 5. 締切 春季 2022年6月30日

夏季 2022年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限りません。

#### 6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

#### 7. 結果発表

学会誌第91巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は2023年度大会講演会会場内でパネル展示します。

#### 8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者は、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1点につき1万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

#### 9. 使用権・著作権

採用作品の使用権および著作権は（公社）農業農村工学会に属します。

#### 10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の学会誌への掲載、肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

#### 11. 応募方法および応募先

学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/format/>）より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名詞（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

## 「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

### 1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎号テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4判、1,500字以内、様式自由）を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を

検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約1カ月後です。本文原稿の分量は、**刷上り4ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**をお願いいたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

### 学会誌第90巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判1,500字以内)
第90巻第4号 持続的低密度社会に、何が必要か—コロナ後、農業農村整備の役割を考える— (仮)	終了
5号 大規模農業水利施設が人々の生活を支える (仮)	終了
6号 流域治水の機能強化に向けた中山間地域の利活用と維持管理 (仮)	終了
7号 大会特集号 (京都支部)	公募なし
8号 全国の水田水域における生態系保全対策の評価および新手法の適用 (仮)	公募なし
9号 みどりの食料システム戦略に貢献する農業農村工学 (仮)	3月10日
10号 現代の農業農村工学技術を支える科学知識のこれまでの経過を考える (I) (仮)	公募なし
11号 現代の農業農村工学技術を支える科学知識のこれまでの経過を考える (II) (仮)	公募なし

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先 (要旨および本文原稿など)

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

※提出は、E-mailの添付ファイルにてお願い申し上げます。

### 第90巻第9号テーマ「みどりの食料システム戦略に貢献する農業農村工学」(仮)

わが国の食料・農林水産業は、気候変動による災害の激甚化、生産者の減少・高齢化の進行、地域コミュニティの衰退などの課題に直面しています。また、SDGs、生物多様性、脱炭素社会の実現など環境を重視する動きが国内外で加速しており、食料・農林水産業においてもこれらに的確に対応する必要があります。

このような背景を受けて、農林水産省では、2021年5月に食料・農林水産業における生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」を策定しました。本戦略では2040年までに革新的な技術・生産体系を開発し、2050年を目標年次とした社会実装により、化学農業・化学肥料の使用量低減、有機農業の取組み面積の拡大、カーボンニュートラルへの対応、スマート技術を活用した労働生産性の向上・省人化・自動化などを実現し、持続可能な食料システ

ムの構築を目指しています。具体的な取組みには農業農村工学の研究開発分野と関連が深い項目が多く、スマート農業技術、再生可能エネルギー利用、地域資源の活用、土壌中への炭素貯留、省エネ型施設園芸設備などがあります。また、社会実装には地域の実情に応じた産学官と現場の連携を重要視しており、農業農村工学が長年大事にしてきた考え方と一致しています。

そこで、革新的な技術・生産体系の実現に向け、農業農村工学における研究・開発事例や、技術の社会実装への具体的な取組みに関する小特集を企画します。みどりの食料システム戦略に対して農業農村工学がどのように貢献するかについて議論を深める特集号としたいと思います。2050年を見据えた今後の中長期的な技術開発と社会実装の展望、農業農村工学で蓄積してきた知見の活用や持続的な改良、また社会実装に必要なブレークスルーなど、幅広く報文を募集します。

### 2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿報文およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/journal/>) に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、「『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き」

を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員会あてに、ご投稿ください。

なお、投稿票・内容紹介・本文(テンプレート)の各ファイル(Word)を更新いたしました。上記の学会ホームページからダウンロードし、各ファイルを使用して原稿の作成をお願い

いたします。

### 改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧申込み案内

#### 改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧希望の皆様へ

改訂6版 農業農村工学標準用語事典は、2019年8月27日に発行し好評を得ていますが、下記に該当する冊子購入者の中で希望される方に対して学会ホームページ上 (<http://www.jsidre.or.jp/>) での閲覧サービスを順次開始いたします。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

- (1) 本用語事典の学会 Web 上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者(大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む)の中で希望される方へサービスを提供します。
- (2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂6

版用語事典 Web 上閲覧希望」とメール件名に明記の上、氏名および会員番号を付記して(学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む)、下記 E-mail にてお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

- (3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。
- (4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版が付記されたコンテンツになります。なお、Web 版とは、改訂5版から改訂6版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂6版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を収録したものです。

### 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2020年7月から2022年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2020年のインパクトファクター(IF)は1.517と過去最高の値になり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災(施設管理, 地すべり, 気候変動, 災害防止など)
- ⑧ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑩ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)
- ⑪ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界11カ国からEditor(20名)を選出することによ

り、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

一方、2020年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

#### 編集体制

##### ・Editor-in-Chief

**Dr. Takao MASUMOTO**

Faculty of Bioresource Sciences, Akita Prefectural University, Akita, Japan

##### ・Associate Editors-in-Chief

**Dr. Seong-Joon Kim**

Konkuk University, Korea

**Dr. Chen-Wuing Liu**

National Taiwan University, Taiwan, ROC

##### ・Editors 11カ国から20名

##### ・Editorial Advisors 29名

##### ・Chief Managing Editor

**Dr. Inhong SONG**

Department of Landscape Architecture and Rural

Systems Engineering, Seoul National University, Korea

##### ・Managing Editors

**Dr. Chihhao FAN**

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,

National Taiwan University, Rep. of China

**Dr. Masayuki FUJIHARA**

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan

**Dr. Eunmi HONG**

School of Natural Resources and Environmental Science,  
Kangwon National University, Korea

**Dr. Toshiaki IIDA**

Faculty of Agriculture, Iwate University, Japan

**Dr. Taeil JANG**

Department of Rural Construction Engineering, Chonbuk  
National University, Korea

**Dr. Kuo-Wei LIAO**

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,  
National Taiwan University, Rep. of China

**Dr. Soji SHINDO**

Rural Development Division, Japan International  
Research Center for Agricultural Science(JIRCAS), Japan

編集事務局 (2022年6月まで韓国担当)

・ **Dr. Inhong SONG**

Department of Landscape Architecture and Rural  
Systems Engineering, Seoul National University  
1 Gwanak-ro, Gwanak-Gu, Seoul, 151-742, KOREA

TEL : +82-2-880-4581

FAX : Fax: +82-2-873-2087

E-mail : inhongs@snu.ac.kr

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年4回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 9,900円 (税込)

学生会員 (院生含む) 4,950円 (税込)

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによるWeb上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局 ([suido@jsidre.or.jp](mailto:suido@jsidre.or.jp)) まで会員番号を明記の上、お申し込みください。

## オンラインジャーナル 農業農村工学会論文集

農業農村工学会論文集は、より投稿しやすい環境と早期公開を実現するため、平成27年4月よりJ-STAGEを利用したオンラインジャーナルになりました。

J-STAGE上に公開されることで被引用環境も整っています。

進化した農業農村工学会論文集に皆様のご投稿をお待ちしております。

→電子投稿・査読システムの導入により、平均3カ月で審査終了！

→審査終了後、順次J-STAGEに掲載！

→論文集購読者は、オンライン登載直後より閲覧可能、

冊子体も配布、掲載料も低価格！

→投稿資格を緩和、非会員も条件により投稿可能に！